



「豊後大野市が好き」 その思いを未来へ。

～議会が聞く教育行政～

令和 8 年 6 月議会において、下田博教育長の再任が同意され、4 期目の任期がスタートしました。
教育は、子どもたちの未来はもちろん、地域の将来を左右する重要な施策の一つです。
市議会においても、政策提言した「給食費完全無償化」が実現するなど、様々な教育環境の充実や教育行政の推進について継続して議論を重ねています。

そこで今回、議会だより「声のかけ橋」では、4 期目を迎えた下田教育長に、これまでの 9 年間を振り返るとともに、今後の豊後大野市の教育の方向性や未来を担う子どもたちへの思いについて、6 月 15 日に教育長室でお話を伺いました。

—4 期目の教育長に就任されました。現在のお気持ちは。

まずは、議会の皆さんにご理解いただいたことに感謝したいと思います。
これまでは必要性の中で、どちらかというと受け身の部分もありましたが、今回はこれまで取り組んできた課題がまだ残っていますので、ぜひ引き続き取り組ませていただきたいという強い思いがありました。
教育長という重責であることは間違いありませんので、緊張感を持ちながら、しっかりと教育行政に取り組んでいきたいと思っています。
全国には多くの教育長がおられますが、本市規模の自治体における教育長の在り方については、今も試行錯誤しています。しかし、他市に負けない、そして市民の皆さんに誇っていただける教育行政を進めていきたいと思っています。

—教育長としての 9 年間を振り返り、特に印象に残っている出来事や成果は。

学校教育で一番大きかったのは、小中一貫教育校を設置したことです。
これは教育だけではなく、まちづくりの取組でもあります。人口減少が進み、地域が疲弊していく中で、地域に学校が残るということは非常に大きな意味があります。
児童生徒数の減少に伴い、統廃合も選択肢としてありましたが、その時点で考えられる最善の策は小中一貫教育だと判断しました。
また、地域に開かれた学校づくりや郷土学と組み合わせながら進めてきたことは、大きな成果だったと思っています。
もちろん課題もあります。しかし、今後も小中一貫教育を基盤として進めながら、この先の人口減少を見据え、さらに成熟した形へ発展させていくことが必要だと思っています。
社会教育では、公民館整備からスタートし、図書館や資料館などの施設整備を進めることができました。
議会の皆さんにもご理解をいただきながら整備できたことに感謝しています。これらの施設は地域づくりの拠点です。
これからは、その施設を活用しながら、市民の皆さんと一緒に地域づくりを進めていきたいと思っています。

—学校現場ではどのような変化を感じていますか。



少人数教育の良さがより生かされるようになったと思います。
一人ひとりの子どもに先生たちがしっかり寄り添い、成長を見守ることができるようになっています。
また、小学校と中学校の先生方が連携しながら、義務教育 9 年間を見通して子どもたちを育てる体制が整ってきました。
9 年間の学びがよりスムーズにつながり、子どもたちにとっても安心して成長できる環境になってきていると思います。

—豊後大野市の教育の強みや魅力は。

一番は、子どもを育てる環境がしっかりしていることだと思います。
情報化が進み、都市部との距離も以前ほど感じなくなっていますが、本市には少人数ならではの良さがあります。大人は「田舎だから何もない」と言うことがありますが、子どもたちは違います。
郷土学などを通して地域の魅力を学び、自分たちのまちの良さをしっかり理解しています。
少人数だからこそ、一人ひとりに目が届く。そうした教育環境は、これからも大切にしていきたいと思っています。

—これまで大切にしてくられた教育理念は。

一番大切にしているのは、子どもたちが楽しいと思える学校です。
いつも学校現場には、「元気よく登校し、機嫌よく下校する」であってほしいと伝えています。
朝起きたときに、「今日も学校に行こう」と思えることが大事です。その積み重ねが、笑顔あふれる学校生活につながります。
また、豊後大野市には地域の皆さんの温かさがあります。
地域の方々には本当に子どもたちを大切にしてくださっています。その優しさを受けるだけではなく、将来は子どもたち自身が周囲や地域に優しさを返せる人になってほしいと思っています。

—DX や AI の時代を迎える中で、子どもたちに身につけてほしい力は。

AI や ICT の流れを止めることはできませんし、止める必要もないと思っています。
これからの子どもたちは、それらを上手に活用できる力を身につけていく必要があります。
ただ一方で、SNS などには危険な面もあります。
だからこそ大切なのは、相手を尊重すること、そして出された情報をそのまま受け取るのではなく、「これは本当に正しいのか」と立ち止まって考える力です。
技術を使いこなしながら、人として正しい判断ができる力を育てていきたいと思っています。

—SNS 等への対応について、学校や保護者への取組は。

携帯電話や SNS の使い方、危険性については、保護者向けの学習会も行っていますし、子どもたちにも継続的に指導しています。
ただ、私は単純に「危ないから使わせない」という考え方ではないと思っています。
よく川遊びに例えるのですが、「危ないから川に行かないようにしましょう」というだけでは、いずれ一人になったときに危険に対応できません。
実際に川に触れながら、水の怖さや安全な遊び方を学ぶことで、自分自身で判断できるようになります。
ICT や SNS も同じです。
危険性を学びながら、どう向き合うかを身につけることが大切です。最終的には、自分で危険を察知し、自分で判断できる力を育てることが必要だと思っています。

—地域との連携やふるさと教育についての展望は。

これは非常に重要な課題だと思っています。
地域が元気であり続けるためには、学校と地域がもっと近い存在になる必要があります。
地域の方から「学校は敷居が高い」という声を聞くことがありますが、学校は地域のものだと思っています。
もっと自由に学校に来ていただきたいし、子どもたちと接する機会を増やしていただきたいと思っています。
現在も地域学校協働活動を進めています。学校が地域を支え、地域が学校を支える関係をさらに深めていきたいと思っています。
私は「地域の学校」という意識をもっと強く持っていただきたいと思っています。

—不登校支援や多様な学びへの対応については。

児童生徒数が減少する中でも、不登校の子どもたちは増加傾向にあります。
学校で過ごしづらさを感じている子どもたちがいることは、しっかり受け止めなければなりません。
私たちは、一人ひとりの学びへのアクセスを保障したいと考えています。オンラインによる学習機会の提供なども進めています。
また、「教育支援センターかじか」の活用も進めています。
さらに、学校に来られない子どもたちに対しては、アウトリーチによる支援も行っています。
スクールソーシャルワーカーや関係機関とも連携しながらケース会議を行い、本人だけでなく保護者も含めて支援しています。
大切なのは、無理に登校を促すことではありません。
一人ひとりの状況に応じて、スモールステップで社会的自立につながる支援を続けていくことだと思っています。
豊後大野市の規模だからこそ、一人ひとりに目を向けた支援ができると考えています。

—4 期目で特に力を入れる取組は。

最大の課題は、児童生徒数の減少です。
しかし、その中でも大切にしたいのは、「地域を大切に思う心」を育てることです。
現在、小中学生の 7 ～ 8 割が「豊後大野市が好き」と答えています。
その思いを将来につなげていきたいと思っています。
進学や就職で一度地域を離れたとしても、それは決して悪いことではありません。
自分の夢を実現するために外へ出て学び、経験を積む。
そして、いつか故郷のために力を尽くしたいと思ってくれる人になってほしいと思っています。
豊後大野市を土台として大きく羽ばたき、将来また地域づくりに関わってくれる人材を育てたいと思っています。
また、それぞれの学校が持つ特色や魅力をさらに伸ばしながら、市内どこに住んでいても質の高い教育が受けられる環境づくりを進めていきます。



—10 年後の子どもたちに、どのような大人になってほしいですか。

豊後大野市に愛着を持ってほしいと思っています。
そして、自分の人生を振り返ったときに、「豊後大野市で育ち、多くのことを学び、今の自分がある」そう思える大人になってほしい。自分自身を大切にし、自信を持って生きていてほしいと思います。
やっぱり、自信を持って生きていてほしいですね。

—最後に議会だよりをご覧の市民の皆さまへメッセージをお願いします。

豊後大野市の子どもたちは、決して全国に引けを取るような子どもたちではありません。
優しく、生き生きと学校生活を送っています。
また、本市には公民館活動をはじめ、生涯学習に取り組める環境があります。
人生 100 年時代と言われる今だからこそ、子どもたちだけでなく、大人の皆さんにも学び続けていただきたいと思っています。
ぜひ地域づくりや子どもたちの見守りに関わっていただきながら、自らも学び、豊かな人生を送っていただきたいと思っています。
子どもたちを見守りながら、自分自身も成長し、地域を元気にしていく。そんな生涯学習の輪が広がってほしいですね。
教育を基盤に、市民の皆さんと一緒に元氣な豊後大野市をつくっていききたいと思っています。

議会中のお忙しい中、下田教育長ありがとうございました。

議会は、市民の皆さまの声を市政へ届けるとともに、教育行政についても議論を重ね、その充実に努めています。
今回のインタビューでは、教育長の考えや教育行政の方向性を直接伺うことで、教育委員会が目指す将来像への理解を深めることができました。
未来を担う子どもたちのために、より良い教育環境の実現に向け、議会としても引き続き教育行政に関心をもち、建設的な議論を重ねてまいります。

下田博氏（70）＝三重町赤嶺・昭和 54 年に教諭として採用、市教育委員会学校教育課長・朝地中学校校長を歴任した後、平成 29 年 から 現職。